

ともどより論なかるべし。然れども力は時代の如く脈遂に振はざりしもの、所詮は力の足らざりしに何を問はずしてその結果を左右すべし。眞智の法あるべきか否か。

戦争地理學に與へたる世界戦争の教訓

理學博士 小川 琢 治

開戦以來五年に互つて尙前途如何に成り行くか
全く見當のつかぬ今回の世界戦争は眞に世界的のもの、クリーシーの世界十五決戦史に記載されたものゝ如きは之に比して眞の兒戯に過ぎぬ。其の交戦の範圍が歐洲を中心として五洲の海陸に廣がつて、獨逸の海軍がキールに封鎖された今日に至つても、其の潜航艇の活動によつて思ひ懸けぬ印度洋の海上で我が常陸丸が毒牙に觸れた様な事件すら起りつゝある。又た本年に至つてスラブ民族の諸國は獨逸軍に捲り立てられて露國の大都市皆其手に落ちんとする危機に瀕して來た。英國歴

史家にして地理家たるマツキンダー氏が露國の世界的位置を論じて世界の樞軸ピエナットと呼んだ、其の場處は今や獨逸の占むる所とならんとし、従つて今後戦争が繼續する場合に此の樞軸から東方に來侵すべき敵國の勢力の波動が那邊まで波及するか、戦争の中心から遠隔の我が東洋すら不安の念を起すことになつた。メソポタミア波斯並に印度は更に近く、又た獨逸の對英敵愾心からも此等の方面の作戦が必ず陰に陽に種々に試みられる筈である。従來の戦争地理學の問題として取扱はれた所は今回の戦争の光輝によつて餘りに狹隘な局部的專

科的の方面に限られたものであつたことが明瞭となつた。舊式の戰爭地理學では戰場に於ける軍の對敵行動に及ぼす地勢、地貌、地形等の影響が主要の題目とされて、其他の地文的事項は輕視され又民族、經濟、政治等の人文的事項に至つては殆んど全く無視されて居た。然るに今回の戰爭によつて戰爭に關する地理的考察の範圍が非常に擴大されて、殆んど地理學の研究するあらゆる方面が戰爭に何等かの關係を有するのみならず、人文地理學の各種の事項が非常に重要な要素たるべきことが高調された。

然れども此の如く戰爭地理學の問題の範圍が擴大されて、外延的エクステンシブに發展すると同時に、從來の研究範圍に於る戰場の地理的關係の如きものも一層科學的に考察するの必要が生じて、内延的インテンシブにも進歩を促すことになつた例の少なからぬことも注意される。其一の事實は攻撃の武器の進歩によつて

起つた所の塹壕戰から、戰場の土性、地質が戰鬥に以前よりも重大な影響を及ぼし、西部戰爭に於ける巴里凹地の地質構造が局部局部の攻勢守勢に對して種々の障礙及利便を供することになつて居る。スカンデナヴィアの聯合軍西部戰況視察員中に地質家が參加して來たのは此の必要を裏書して居る。従つて將來の作戰には戰場の地質圖及び土性圖を利用すると否とによつて戰鬥に影響する利不利頗る大なるものがある。

戰場に於ける氣候及び氣象の及ぼす影響も亦た過去の戰爭に感じたよりも一層重大となつた。從來の戰爭の如く偵察任務が主として騎兵に限られた時代では、大氣の溫度や風向の關係は或程度まで無視され得た筈であるが、今や飛行機の使用によつて偵察の面目が一新し、其上に時として飛航船が攻撃の武器として働き得るのみならず、毒瓦斯すら戰線に散布されることになつて氣象の豫知

即ち天氣豫報が攻守共に必要缺く可らざることになつた。戰爭の開始後英佛の天氣豫報が獨探によつて密報されるので、豫報の發表を見合はしたの

は最も現實に此の影響の重要を語るものである。而して此の天氣豫報の秘密主義が行はれて中央同盟國側の不利なことは、西歐及び中歐の氣象の地球自轉の原則に従つて氣壓の變化の西から東への移動によりて支配される爲めで、大西洋岸の氣象豫報不明の結果は英國攻撃を企圖する獨逸の飛航船の使用の場合に殊に痛く感ぜられるであらうと想はれる。

次に戰爭に影響する人文的關係の今回の戰爭に於て從來より一層重要となる特色を觀るに其第一問題は交戰國の人口と國民の素質である。國民皆兵の主義は今回の戰爭に始まつたものではないが事實上に國民皆兵主義の實行されたのは今回と想はれる。普國では十九世紀の初めから實施された

が、普佛戰爭の際聯邦軍隊の佛國境を越へた總數百十五萬人と注された。日露戰爭に日本の滿洲に出した戰鬪員及び直接戰爭に關係した非戰鬪員の總數と雖二百餘萬を越へなると想はれる。此等の場合には何れも國の壯丁全數に對する或率だけが戰場に繰り出された譯で、従つて人口關係から國民の堪得る極限よりは遙かに低い率に過ぎなかつた筈である。然るに今回は戰鬪に参加する員數は各國共に人口の頗る高率を占め、獨逸の如き男人口約三千二百萬の内十五歳以上五十歳までの人口を其半數とすれば約千五百萬で、其五分二乃至二分一は既に戰鬪を経て十分一位死亡及廢兵となつたらうと推察するのは誇大に失せぬと想ふ。リエチ攻撃以來獨逸の戦法が屢取つた集團攻撃から推せば或は尙ほ多數であり得る。故に若し推定にして中らずとも遠からずとせば男人口總數の一割に近き死傷者を出し、働き盛りの人口の一割を

永遠に失したらう。佛國の如く其の三分二に足らぬ人口の國では其の人口に對する動員の率は更に高く、補充の困難も多い譯で、初めから廉頗長平の戦法によつた守勢を取つて其銳鋒を避けたのは此の人口の關係から至當であつて獨逸の如く肉彈で堅陣を衝く戦法は戰爭永延くに從つて倍冒險らしく見れて來た。

今やセルビア、ルーマニアの潰敗に續いて露國が瓦解した爲めに獨逸の東方の配置を緩めて西部伊太利に向けることが可能とはなつたが、聯合軍は新に合衆國を加へて戰闘員の幫助は兎に角武器彈藥食糧等の補充は倍潤澤となつたから、守勢を維持するには尙十分の實力ありと信せられる。「一八一三年の徴兵及びブライタールー」の小説は佛國小説家エルクマン、シャトリアンが生存者の實歴談によつて書いたもので、ナポレオンのライプチヒ敗戦の前後に兵員の補充に苦んで跋までを徵集

したことを記載して居るが、今回各交戰國の兵員補充の困難は逆も我が日露役の末期に於ける補充兵徵集などの實況から想像されまい。故に若しも聯合軍の西部戦線の防備が十分であるとすれば、今回新に試みつゝある獨逸軍の集團攻撃を幾回か繰返すことは兵員を消耗すること多大で、結局人口の絶對數から生ずる兵員補充の困難が講和を促す重なる動機となるべきは疑を容れぬ。

此の如き次第で戰爭の規模の大なるに從て國家の有する人口の多少が兵員補充の難易を決定するに倍重大となる。

戰爭地理學から觀て人口が此の如く重要であるから現在の人口を考へるに止らずして、其増加率を考へて將來を推定するを要する。而して又複利法の計算法によつて單に増加率を乗するのみでは不正確で、増加率即増加率の増減を考へに入れるを要する。獨佛兩國の五十年前即ち普佛戰爭の時

の人口と現在の兩國人口とを比較すれば佛國の増
加率の小なる爲めに不利な位置に在るのは何人も
知る所であるが、今回戦争の開始前に瀾逸は既に
人口増加率の減退を見て居たのであるから、今後
幾十年後の獨佛兩國の人口を比較せんとするには
此の増加率(此場合には負性を考へねばならぬ。
簡單な鼠算は此場合に適用されぬ。

日本の場合には如何。今日まで尙ほ正確な人口調

査が行はれなかつたから恰も地質圖、土性圖、每
日の天氣圖なきと同じ非科學的な立場に在るもの
で、是は將來の兵員補充を計畫するに當つて非常
な缺點である。今後は少くも五年毎に人口調査を
行つて精密正確な人口及び其増加率増加進率を明
かにせねば軍事上から將來の兵員補充の計畫を正
確に立てられまい。

國民の種族、素質も亦た兵力を考ふるに重要な
問題であるが、是は純地理學以外の範圍に涉るも

ので人文地理學の現在に於て論ずることが困難で
もあり、又た獨り今回の戦争によつて特に著明と
なつた譯でもないから茲には論せぬ。

第二の問題は國の富源を開發利用する所の産業
で、即ち經濟地理學の範圍に屬するものである。

軍事地理學の問題として第一に來るものは戰鬪に
直接必要な兵器製造で、其他の金屬工業が主要な

材料を供し、又之に伴ふ火藥製造には種々の非金
屬及び有機性原料を要する。此等の材料を國內に
産すると否とは國外物資輸入の杜絶した場合に生
死の分れ目となるべきである。今回の戦争に於て
獨塊兩國も英佛兩國も共に鐵鑛の供給は左まで不
便がなく、從て製鐵事業が戦争の爲めに却て以前
よりも活況を呈したことは想像に餘りある。獨逸
は西部戰場の進出によつてリル、ヅエ近傍の北部
炭田地方からブレーの鐵鑛産地を占有し、ライ及
リユクサンブルの鐵鑛産地と共に頗る潤澤な鑛

石供給をなし得、又瑞典との交通も比較的自由だから、其鐵鑛及鐵鋼の供給をも仰ぎ得る。英佛も國內の鐵鑛の外に西班牙ピルバオ伊太利エルバ等の鐵鑛を輸入し得るから、大なる不足を感せぬ。

製した揮發油で幾分は代用されたらうが、近來ガリシア、ルーマニアが獨逸の手に落ちたので其の供給は可能となつた。

獨逸に至つては海洋上の交通が封鎖された爲めに金屬中銅の輸入が杜絶したことが非常なる苦痛なるべく埃國にも豊富な銅山がないから同じく不足に苦みつゝある。硝石の輸入杜絶は同盟國では豊富な加里及曹達鹽鑛床の存在と空氣中の窒素固定が可能なるので、餘りに大なる打撃とはならぬ。爆藥製造に必要な綿花輸入が杜絶した後に他の植物纖維を代用する發明があつたと傳へられたから是は獨逸にあつても現在では非常な苦痛とは感ぜられて居らぬであらう。自働車輪のタイヤに要する護謨の代用品が如何に造られたか分らぬが、是は多少の苦痛であらう。自働車及び飛行機の燃料として必要な石油の輸入杜絶はコールターから再

今回の戦争に於て最も著しい特性の一は獨逸の

最近人口の増加と商工業發達に伴ひ起た穀物の不足に乗じて聯合國の採つた食料品の輸入杜絶で、是が今日まで最も獨逸を苦めた大事件であつたに相違ない。然るに今や獨埃兩國の軍隊がルーマニアを席卷して深くキエフ、オデッサの地方に入り込んだがから今後は恐らくは小麥の供給に多大の困難はなくなるべきである。此の如き封鎖はナポレオンのコンチネンタル、システムに伴つて海外植民地貨物の輸入が杜絶した際に感じた所などは非常な相違で、一億餘の獨埃兩國の兵糧攻めを策したものであつて、獨逸が開戦の爲めに自から招いだ所として最大の災厄といふべきである。又た之に對抗する獨逸の潜航艇の英國封鎖の宣言及

實行も頗る重大な結果を起し、今や英國亦た獨逸の擧に倣ひ食料品の切符を配付する必要を見た。

此の如く國內の富源と發達せる産業の種類とは四面に敵を受けた強國の戰爭續行の可能不可能及び持續年月の長短に重大な關係あることが今回の戰爭の教へた最も痛切な教訓である。

獨逸には被服の原料として棉花及び羊毛が多量に輸入されたのが杜絶した爲めに羅紗綿布の機械を妨げて居る筈である。皮革類の輸入も亦た多量であつたから其缺乏によつて靴其他の日用品も騰貴した筈である。此等の原料の杜絶は前に述べた小麥の輸入杜絶と脂肪類の缺乏と共に國民全体を饑寒に呻吟せしめるもので、包圍状態に在る中央同盟國の國民全体の悲惨な運命は實に憐むべきものである。

之を要するに世界戰爭の現況から考へて、戰爭地理學なる分科は地理學のあらゆる方面に涉るこ

とが明かとなつた。而して此の直接の結果として國際的に交通、運搬及び通商のあらゆる機關に異常の調攝を試みつゝある現狀を熟視すれば、假令此の戰爭が表面上に結末を告ぐるとも如へられたる活動の抑壓と濫用とは容易に恢復されるとは想はれぬ。是に於てか將來の經濟地理學は政治區劃より起る影響によりて富の流通分配が多量の制限を受くることを一層重大視せねばならぬ。

今後の戰爭地理學なるものは軍事地理學に於て從來取扱はれたる範圍よりも遙かに廣くなつて、地理學の研究する大抵の問題と直接又は間接の關係を有することになつた。然れども我々は未だ極めて表面的に交戰國間に公知の材料によつて考察し得るに止まるから如何にせば戰爭地理學の科目を系統的に考究し得るかに就て具體的に論述することは戦局の收まるを待たねばならぬ。